

I 「ひきこもり当事者調査」について

1. 調査の背景と目的

町田市では、1998年度に思春期の精神専門医相談を開始して以降、ひきこもりの状態にある方と家族の専門グループ活動（2003年度に親グループ、2006年度に本人グループの活動を開始）を行うなど、ひきこもり支援に取り組んできた。

「町田市新5カ年計画」（2012年度～2016年度）では、「ひきこもり者支援体制推進事業」を重点項目と位置づけ、初年度の2012年度には「若年者の自立に関する調査」を実施した。これは、①一般市民調査、②民生委員・児童委員調査（いずれもアンケート調査）、③社会資源調査（町田市内及び近郊にある医療機関への聞き取り調査）の3つの調査から構成されるものであった。この調査を通じて、一般市民及び民生委員・児童委員のひきこもりの問題に対する関心の高さや、社会的支援の必要性について支持されていることが確認できた。また医療機関から保健所に対しては「入院支援や退院後のフォロー、家族支援などの個別支援活動のほか、地域との連携強化、疾患についての普及啓発、社会資源情報の発信、社会復帰の場の提供、精神保健における医療連携の中心的な役割」等が期待されていることがわかった。さらに、ひきこもりの若者の早期発見、早期支援の体制づくりと、地域の関係機関によるネットワークの構築が、取り組むべき課題として確認された。

2012年度の調査結果を踏まえて、2013年度には町田市保健所で支援している方、町田市内及び近郊の支援機関につながっている若者10名を対象に「ひきこもり当事者調査」を実施し、生活の状況や、ひきこもりに至った原因、支援機関につながるまでの経緯や気持ちの変化等を、当事者から直接聞き取った。

本調査（2014年調査）は、この「ひきこもり当事者調査」のヒアリング結果について、ケース毎の情報と共通にみられる状況等について整理し、分析を行ったものであり、今後のひきこもり支援施策の方向性を検討するための資料とするものである。

2. 「ひきこもり当事者調査」の概要

1) 対象者

町田市内及び近郊の支援機関で支援を受けている方（または援助を受けていた方）で、現在ひきこもりの状態から回復している方。その上で、調査の趣旨を理解し協力の意思表示をした方10名。

2) 調査方法

①調査期間

2013年11月1日から2014年3月31日まで

②データの収集方法

事前に本人に「自記式質問調査用紙」を配付、記入してもらった上で、調査員2名による面接を行った。面接の時間は1人あたり概ね2時間であった。

③主な調査項目

- ・家から出られなくなった経緯
- ・ひきこもっていた時の状況
 - ・ひきこもっていた時の気持ちや考え
- ・家族の対応とそれに対する気持ち
- ・相談機関につながるまで
- ・支援の状況
- ・医療機関の利用状況
- ・望んでいた支援・望む支援
- ・支援者について
- ・現在の状況について
- ・今ひきこもっている方へのメッセージ

3) 倫理的配慮

調査対象者には文書及び口頭で調査の主旨を伝え、調査への参加協力は自由意志であり中断しても不利益を被ることは一切ないことを保障し、同意を得るなどの倫理的配慮を行った。